

定禅寺ストリート ムービー・シアター

人は誰も、長い人生の中でやり残したことを思い出すことがある。
何年かけても、どれだけ苦労しても、どうしてもそれをやらずには
人生を終えられないと思うことが、あなたにはありますか？
本作は、そんな信念を持ったある男の物語である。

厚生労働省推薦 日本医師会推薦

人生でやり残したこと、ありませんか？

ふたたび

SWING ME AGAIN

往年のジャズの名曲にのせて贈る、心温まる感動作。

全てを失った男が、ふたたび歩き始めた。
指に馴染んだトランペットと
出会ったばかりの孫を連れて――

企画・監督：塩屋 俊 原作・脚本：「ふたたび」矢城潤一 第5回日本ラブストーリー大賞 エンタテインメント特別賞、 ©2010「ふたたび」製作委員会

貴島健三郎、78歳。男は50年の時を経て、友との約束を果たすため、最後の旅に出た。出会ったばかりの孫と共に――
いつも心にジャズが流れる街、神戸。大学生の貴島大翔には、密かに憧れるジャズバンドがあった。“COOL JAZZ QUINTETTE”――
それは、たった1枚のLP盤を残して忽然と姿を消してしまった幻のバンドである。大翔はコレクションの中に偶然そのLPを見つけ、熱烈なファンになった。

ある日、父・良雄が重い口を開いた。亡くなったと伝えていた祖父は生きている。ハンセン病療養所から50年ぶりに戻るから、我が家へ引き取ることにした、と。大翔には、生まれて初めて会う祖父・健三郎との接し方がわからない。頑固一徹。会話もない。ところが何の気なしに聴かせた一枚のレコードに、健三郎の表情が一転した。「嘘だろ？爺ちゃんが、COOL JAZZ QUINTETTEのトランペッター？」しかし、健三郎は多くを語らなかった。

そんな健三郎が、黙って家を出た。「人生でやり残したことがある。50年前のバンド仲間を探したい」――大翔はこの旅に同行することとなる。
かつてのバンドメンバーを訪ねる形で、神戸から京都、そして和歌山へ……。50年ぶりの再会に戸惑いながら、健三郎の訪問に喜び、泣き、笑い、興奮する友人たち。そんな中、一人の女性の存在が明らかになる。彼女は、COOL JAZZ QUINTETTEのピアニストで、ハンセン病の健三郎の子供を産んだことで、家族からも子供からも引き離され、一人さびしく死んで行ったのだという。健三郎が一番会いたかった人とは、この女性＝祖母だったのだ。大翔は、この旅を通して祖父から父・良雄を経て、自分へと繋がる家族の絆を知るのだった。

2人の旅が終わりを迎える時、そこには思いがけないサプライズが待っていた。神戸の憧れのジャズクラブ「SONE」で、50年間果たせなかったCOOL JAZZ QUINTETTEのライブを実現出来ることになったのだ。感動のラストステージが、今、幕を開ける――。

上映日：9月10日（土）午後7時～

9月11日（日）午後2時～、午後5時～（開場は各30分前）

会場：NHK文化センター 地階 会議室 仙台市青葉区立町27-21（定禅寺通り、橋本ビルディング）
全自由席 定員180名（定員になり次第入場をお断りする場合がございますので、ご了承ください）

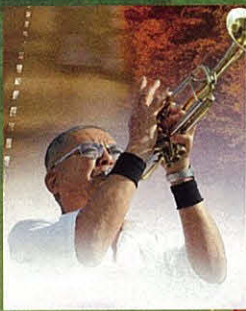
主催：「ふたたび」上映委員会 in 仙台
共催：NHK文化センター 仙台総支社
協賛：キリンビール株式会社 宮城支社
協力：定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会
お問合せ：TEL 090-8619-2551



ワン・コイン ムービー
観覧料金：500円

料金は、当日会場にて
お支払いいただきます。

売上金の一部を定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会・
東日本大震災復興支援プロジェクトに支援金として寄付いたします。



若き頃才能あるジャズトランペッターだった。ハンセン病で50年以上も島に隔離されていた。自分にはやらなければいけないことがあると、旅に出る。

バンドのピアニストで、健三郎と愛しい子供を宿すが、彼の病気を理由に別れることに。

ウッドベースを担当していた。現在は痴呆症を煩い京都で息子家族と同居中。

トロバーンを担当していた。現在は大きなピアノ会社を経営



心配



療養所で健三郎を担当していた看護師。ハンセン病の祖母を持つ。旅をする健三郎を心配し、途中から同行することに。



旅に同行

娘の結婚を気にして健三郎を引き取ることに反対する。



経営する会社が苦しい状況。父親を引き取ることを決心する。

夫婦

COOL JAZZ QUINTETTE



ドラムを担当していた。現在は和歌山で子供や孫と静かに暮らす日々。



貴島家



大学生。ジャズサークルでトランペットを吹いている。



神戸の有名ジャズクラブ「SONE」のオーナー。COOL JAZZ QUINTETTEの一夜限りのライブ実施に力を貸す。

貴島健三郎、78歳。頑固で偏屈だが、50年間心に抱えてきた想いを果たそうと、思うように動かなくなった手に杖を握らせ旅する姿は、家族や仲間たちの心を動かしていく。そんな彼の生き様は、「いくつになってもやり残したことにチャレンジしよう」と前向きなメッセージとして、私たちの背中を押してくれる。さらに本作は、「出会ってすぐに旅に出る祖父と孫」のパティムービーであり、ロードムービーでもある。旅の途中で孫・大翔(ヒロト)は祖父から、【家族の絆】や【友との絆】を重んじることの大切さを学んでいく。そして、祖父の“最後の旅”を共に成し遂げたいと切に願うようになる。この旅の結末に、観る者は涙を流さずにはいられないだろう。

重要なキャストには、祖父の旅に同行することになる大学生・大翔(ヒロト)役に、TVドラマや映画などで人気急上昇中の鈴木亮平が、50年間の想いを抱えて旅にでる祖父・健三郎役に、満を持しての映画登場となる名優・財津一郎が決まり、年齢差約50歳のコンビが誕生した。また、2人を見守る女性看護師と健三郎のかつての恋人という2つの難役に挑戦したのは、映画『252 一生存者あり』(08)のヒロイン役で注目され、日本で本格的に女優活動を開始したMINJI。さらに、往年のジャズバンド「COOL JAZZ QUINTETTE」のメンバーに、独特の存在感で輝き続ける藤村俊二、クレイジーキャッツのベーシストで数々の主演映画を持つ犬塚弘、歌手・佐川ミツオから今や俳優へと定着した佐川満男が、味のある演技で脇を固める。そして、大翔の両親を陣内孝則、古手川祐子というベテランの二人が演じ、祖父の出現で揺れる家族が見事に描き出され、映画を重厚なものにしている。監督の塩屋俊が5年間企画を温めて来た本作は、ハンセン病という難しい背景を持ちながらも、祖父と孫のロードムービーとして爽やかな余韻を持たせることに成功している。全編流れるジャズも往年の名曲を彷彿とさせるオリジナルナンバーから、「My Blue Heaven」など誰もが知ってるスタンダードナンバーまで色彩鮮やかに観客を魅了する。また、「世界のナベアツ」こと渡辺貞夫がジャズクラブのオーナー役で出演し、華麗なサクソプレイを聴かせるのも見所である。

新 キリンフリー

もういちど、ノンアルコールを新しく。
新しくなったキリンフリー

KIRIN FREE
キリンフリー
ノンアルコール・ビールテイスト飲料

協賛: キリンビール株式会社

会場: NHK文化センター
地階 会議室
仙台市青葉区立町27-21
(定禅寺通り、橋本ビルディング)

